

## 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について

「平成27年度全国学力・学習状況調査」が4月に市内小・中学校17校で実施されました。安曇野市教育委員会では、今後の教育施策や教育活動に役立てるため、市校長会と学力向上推進委員会を組織し、結果の分析を行いましたので、その概要を報告します。

### 調査の概要

#### (1) 調査の対象学年と実施した学校数・児童生徒数

調査学年	対象学校数	実施学校数（実施率）	実施した児童生徒数
小学校第6学年	10校	10校（100%）	890人
中学校第3学年	7校	7校（100%）	892人

#### (2) 調査の内容

##### ①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

ア 主として「知識」に関する問題〔国語A、算数・数学A〕

イ 主として「活用」に関する問題〔国語B、算数・数学B〕

ウ 理科

##### ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

各教科区分の学力調査結果および学習状況調査結果から、安曇野市内小・中学校においては次のような傾向があることがわかりました。

### 調査結果の概要

#### I 各教科区分の平均正答率の状況

##### 【全国・長野県の平均正答率に対する比較の目安】

表 現	正 答 率 差
大きく上回っている	4.0以上
上回っている	2.0～3.9
少し上回っている	1.0～1.9
ほぼ同じ	±0.1～±0.9
少し下回っている	△1.0～△1.9
下回っている	△2.0～△3.9
大きく下回っている	△4.0以下

「大きく上回っている」とは・・・

教科に関する調査の結果について、本文中には、「大きく上回っている」、「少

し下回っている」などと表現しています。これは、上記表に基づく基準で、それぞれの言い回しを用いています。たとえば、全国の正答率が80、安曇野市の正答率が84だった場合、別表に基づき、正答率差が4.0以上となり、「大きく上回っている」と表わします。

## 小学校

○ 小学校国語A 主として「知識」に関する問題について

\* 全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

### 話すこと・聞くこと

全国（公立）より大きく上回っている。長野県（公立）より上回っている。

### 書くこと

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

### 読むこと

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）とほぼ同じである。

○ 小学校国語B 主として「活用」に関する問題について

\* 全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）とほぼ同じである。

### 話すこと・聞くこと

（調査問題なし）

### 書くこと

全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）とほぼ同じである。

### 読むこと

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

（調査問題なし）

○ 小学校算数A 主として「知識」に関する問題について

\* 全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）より少し上回っている。

### 数と計算

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）より少し上回っている。

### 量と測定

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）とほぼ同じである。

### 図形

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）より少し上回っている。

### 数量関係

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

○ 小学校算数B 主として「活用」に関する問題について

- \* 全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）とほぼ同じである。

**数と計算**

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

**量と測定**

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

**図形**

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

**数量関係**

全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

○ 小学校理科

- \* 全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

**物質**

全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）とほぼ同じである。

**エネルギー**

全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

**生命**

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より上回っている。

**地球**

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より上回っている。

**中学校**

○ 中学校国語A 主として「知識」に関する問題について

- \* 全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

**話すこと・聞くこと**

全国（公立）より少し上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

**書くこと**

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

**読むこと**

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

**伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項**

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より少し上回っている。

○ 中学校国語B 主として「活用」に関する問題について

- \* 全国（公立）より少し下回っている。長野県（公立）とほぼ同じである。

**話すこと・聞くこと**

全国（公立）より少し下回っている。長野県（公立）とほぼ同じである。

**書くこと**

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

**読むこと**

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

**伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項**

（調査問題なし）

○ 中学校数学A 主として「知識」に関する問題について

\* 全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

**数と式**

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）より少し上回っている。

**図形**

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）より少し上回っている。

**関数**

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

**資料の活用**

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

○ 中学校数学B 主として「活用」に関する問題について

\* 全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

**数と式**

全国（公立）より少し下回っている。長野県（公立）とほぼ同じである。

**図形**

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

**関数**

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

**資料の活用**

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）より上回っている。

○ 中学校理科 全体

\* 全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

**物理的領域**

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

**化学的領域**

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）より少し上回っている。

**生物的領域**

全国（公立）より上回っている。長野県（公立）とほぼ同じである。

## 地学的領域

全国（公立）とほぼ同じである。長野県（公立）とほぼ同じである。

## 学力

### ● 傾向と課題

各教科の平均正答率をみると、中学校の国語Bが昨年度に続き全国より少し下回っているという結果になりましたが、差は小さくなり改善傾向にあります。他は全国や長野県とほぼ同じか高い結果になりました。また、調査結果の経年変化を見ると、国語・算数(数学)ともに、基礎的な知識・理解や技能については良い傾向が見られました。しかしながら資料を基にしながら答える活用力を問う記述式の問題形式では正答率が低くなったり、無答率が高くなったりする教科の領域があることも分かってきました。こうした結果を、日々の授業に生かしていくためにも、調査結果を該当学年だけでなく全校の課題としていくことが必要であると思われます。

昨年度・一昨年度と無解答率を比較してみると、「国語の問題について、解答を文書で書く問題がありました。どのように解答しましたか」という質問に対して「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた安曇野市の小学生・中学生は年々増加傾向が見られます。算数・数学についての同様の質問である「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた小学生・中学生は昨年度と比べるとやや減少しています。この数値を全国と比べると小学校では国語・算数とも少し上回る傾向にあり、中学では、国語・数学とも少し下回る結果になりました。

### 【小学校の傾向と課題】

国語では、言語についての基礎的な知識・理解や技能は、おおむね身につけていると思われます。しかし、文章と図とを関係付けて自分の考えを書くこと、目的や意図に応じて書くことに課題があると思われます。書く問題では最後まで書こうと努力する良い傾向になってきていますが、正答率が他の問題よりも低い結果になっています。引き続き「書くこと」への指導の充実が求められます。その他、引用に関する設問の正答率が低くなっています。引用の仕方を指導すると共に目的に応じて適切に引用できるように指導することが必要であると思われます。

算数では、「数と計算」の領域で、基礎的な計算をする技能などは昨年と同様におおむね定着していると思われます。しかし、示された情報から基準量を求める場面を捉え、比較量と割合から基準量を求める設問や、示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く設問など、活用力を問う問題には課題があるので、数学的な考え方を伸ばしていく指導が一層必要であると思われます。

理科では、すべての領域において全国の平均を上回っています。また、県の平均を少し上回っています。基礎的な自然事象に対する知識・理解はおおむね身につけていると思われます。しかし、温度の変化に伴って変わる析出する量について、グラフを

基に考察して分析することや方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析することなどに課題があります。科学的な思考・表現を伸ばしていく指導の工夫を続けて行くことが、「活用」に対応する学力のさらなる伸長につながっていくと思われます。

### 【中学校の傾向と課題】

国語では、文脈に即して漢字を正しく書いたり、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使ったりする、基礎的な知識・理解や技能などはおおむね定着していると思われます。しかし、表現の技法(擬態語)についての理解を問われる問題では正答率が低い結果となりました。また、状況に応じて、資料を活用して話すことや、文章の中心的部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉えることなどに課題があると思われます。

数学では、基本的な計算技能はおおむね身につけていると思われます。また、4領域の長野県の平均正答率との比較では、A問題でほぼ同じか少し上回り、B問題でほぼ同じか上回る結果となりました。特にB問題の「資料の活用」領域では、長野県・全国よりもともに上回りました。一方、数量関係を等式にあらわすことや具体的な事象を数学的に解釈した上で処理したり、その結果を説明したりすることに課題が見られました。このことは、生徒質問紙質問番号(63)「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の質問に対し、あてはまらない・ややあてはまらなると回答した生徒が6割を超えていることとも関連があると思われます。題材として日常的・具体的な事象を提示し、それを「数学」のステージにのせて考察し、その結果を評価改善していく学習活動を位置付けていくなどの工夫が必要であると思われます。

理科では、平均正答率が、全国平均と比べてほぼ同じ程度であり、県平均と比べて少し上回る結果となりました。生物領域においての基礎的な知識はおおむね理解できていると思われます。しかし、地学領域においての科学的な思考・表現を問う、他者の考えを検討して、誤っているところを修正する設問については、理解が十分でないと思われます。また、適切な課題を設定する設問や事象が起こる理由を説明する設問といった記述式の設問では無回答率が他の問題より高くなりました。生徒自らが自然の事物・現象から問題を見だし、適切な課題設定を行い、追究するといった、科学的な思考・表現力を高める指導が一層必要であると思われます。

## 生活環境や学習状況

### ●傾向と課題

小学校・中学校ともに幾つかの項目で、全国や長野県と同じかまたはよい傾向がみられます。中でも「今住んでいる地域の行事に参加している」「学校のきまり(規則)を守っている」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」「難しいことでも、失敗を恐れないうで挑戦している」「新聞を読んでいる」などは、

今後も大切にしていきたい安曇野市の児童生徒のよい傾向です。また、朝食を毎日食べることや起床就寝の時間を一定させることも例年同様良い傾向がみられます。

### 【小学校の傾向と課題】

基本的な生活習慣が定着し、学校のきまりを守り、友達の話をよく聞き、難しいことにも挑戦するという良さがある反面、「家の人と学校での出来事について話をする」「友達の前で自分の考えや意見を発表する」ことについては、全国や県に比べて低い傾向がみられます。

また、自分で計画を立てて勉強していると答えた児童の割合は年々向上傾向にありますが依然として低い実態があります。さらに、家庭学習の内容についてみると予習や復習をすると答えた児童生徒は全国平均よりも低い傾向があり、自分で計画を立て学習をしているものの授業の予習・復習には結びついていない実態があると考えられます。

「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」について、全国や長野県より使用時間が短い傾向がみられました。「携帯やスマートフォンをもっていない」割合は56.1%で全国を大きく上回っていますが県平均とほぼ同じで、年々減少傾向にあります。学校や家庭が連携してネットのマナーや留意点、使用上の約束を確認する必要があります。

### 【中学校の傾向と課題】

「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」「自分には良いところがある」と答えた生徒は、全国や県と比べると高い傾向がみられ、自尊意識の高さが伺えます。

「読書がすき」「家で学校の宿題をしている」も、全国や県を大きく上回っています。「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」と答えた生徒の割合は、全国よりも大きく下回り、家庭学習の内容や方法について小学校と連携し一貫した改善の取り組みが必要であると思われます。

「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」では、使用時間が全国や長野県よりも短くなっています。「携帯電話やスマートフォンをもっていない」割合は全国を大きく上回り、長野県とほぼ同じです。「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間」は、長野県とほぼ同じで、全国より短い傾向があります。携帯電話やスマートフォンの使い方については、危惧される様々な状況を想定しながら、必要な指導をしていく必要があります。

## 調査の今後の活用

安曇野市教育委員会と各学校は、調査を通して把握した児童生徒の実態を教育施策や教育活動に役立てていくために、関係機関と連携しながら次のような取組を行います。

### 教育委員会

- ① 全国学力・学習状況調査の分析から見えてくる児童生徒や学校の評価や課題を、日々の教育活動に活かせるように支援していきます。
- ② 基本的な生活習慣や家庭学習の一層の定着を図るために、校長会・教育会・市PTA連合会と協働で作成した「家庭学習のすすめ」の理解と活用を進めていきます。
- ③ 授業や学校生活、家庭学習などに見られる教育課題に対応していくために、市校長会や市教育会と連携して、調査・研究を行ったり、小・中学校間の教職員の交流や研修などを推進したりしていきます。
- ④ 指導方法を改善し、学習効果を高めるために、市費加配教員(市費により、教員の標準定数に加えて配置された教員)の配置について検討していきます。

### 学校

- ① 基本的な生活習慣の形成と家庭学習の定着のために、市教育委員会や家庭、地域と連携をしながら取り組んでいきます。また様々な機会を通して協力を呼びかけたり、支援をしたりしていきます。
- ② 児童生徒が、授業や学校生活、家庭学習などについて自分の課題を知り、自ら改善していくことができるように、児童生徒と各家庭へ具体的な指導・助言や支援を行っていきます。
- ③ 自校の傾向や課題を把握・分析し、指導内容や指導方法の改善に活かすようにしていきます。そのために、以下の点にも配慮します。
  - (ア) 「家庭学習のすすめ」や各校の学習の手引き活用の観点からも分析する。
  - (イ) 回答数が低い(0～2問程度)児童・生徒の分析をする。
  - (ウ) 有意に落ちている又は伸びている問題の分析をする。
  - (エ) 当該学年、当該教科だけの課題にするのではなく、全校の授業改善の課題にするために、CRTなどの学力検査と関連付けて分析する。
- ④ 「児童(生徒)質問紙」や「学校質問紙」から見えてくる評価や課題を、日々の指導や教育活動に活かしていきます。

## 比較的正答率が高い傾向にある子どもの生活の様子

学力調査結果と学習状況調査結果のクロス集計を分析すると、小学校・中学校により多少の違いはありますが、表1、2に示す項目などにおいて正答率が比較的高い傾向が見られます。



### 【表 1】（小学校の例）

- ◇ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- ◇友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意だ。
- ◇家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする。
- ◇家の人(兄弟姉妹を除く)は、授業参観や運動会などの学校の行事に来る。
- ◇家で、自分で計画を立てて勉強している。
- ◇読書が好きだ。
- ◇国語・算数・理科の勉強は大切だと思う。
- ◇学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいとは思わない。
- ◇授業で扱うノートに、学習の目標(めあて、ねらい)とまとめを書いている。
- ◇解答を文章などで書く問題は、最後まで解答を書こうと努力した。

### 【表 2】（中学校の例）

- ◇普段(月～金曜日)、1日当たりテレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間が短い。
- ◇昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に行く頻度が高い。
- ◇家の人(兄弟姉妹を除く)は、授業参観や運動会などの学校の行事に来る。
- ◇家で、学校の授業の復習をしている。
- ◇学校に行くのは楽しいと思う。
- ◇地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。
- ◇読書が好きだ。
- ◇国語・数学・理科の勉強は大切だと思う。
- ◇学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいとは思わない。
- ◇解答を文章などで書く問題は、最後まで解答を書こうと努力した。